

成果の説明書

(氏名) 岡村晃子	(学部) 経済
<p>1 重要事項</p> <p>2021 年度はこれまでに実施してきた学習の楽しさと学習の意欲の Speaking skills への効果についてまとめ、そしてその結果に基づく研究を実施してきた。研究結果発表では口頭発表(以下に記入)を 1 回実施したが、論文として発表には間に合わなかった。これは論文に向けて統計分析がまだ不十分な点が残っていたためである。しかし興味深い結果がいくつかわかってきたのでこの段階での結果を提示したい。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 調査した学生 (87 人) の中で、意欲が高く、授業で英語を話すことはとても楽しいと回答した学生が英語の聞き取り、暗唱テスト両方で点数が上がっていることがわかってきたが、これは驚く結果ではない。興味深い点は、テストの点数を変数として、学生を 3 つのグループ (1 年を通しての 8 回のテストで平均点以上、平均点程度、平均点以下) に分けると、成績が平均点以上を維持していた学生だけが意欲と楽しさが並行して上がっていた。言い換えれば、楽しさだけでは学習につながらないことが分かってきた。2) 上に示した 3 つのグループごとに 2 つのテスト (Dictation & Recitation) への学習への対策 (learning strategies) を調べた。結果として、統計的には差があるとは言えなかったが、成績が高い学生ほど複数の learning strategies (英語を聞く、繰り返し言ってみる、書いてみるなど) を利用する傾向があった。そして、そのうち「声に出して英語を言う」ということが聞き取り、暗唱両方のテストの結果と統計的に関係がることが分かった。この結果により、聞く、話す力の向上には声に出して言ってみるものの大切さがわかってきた。3) 2) の結果をさらに調べるために、2021 年度は大学から研究奨励費を受け、Recitation test へのコメントを 8 人の学生から得た。コメントは賛否両論を含んでいたが、プラス面を強調した学生は、英語を声に出して、暗記して発表することが聞き取りに役に立つという点を挙げていた。話すことで聞き取りの問題点がわかり、聞き取り力の向上につながるという 2) の結果と繋がるのが分かる。暗記自体が英語を話す力を直接向上させるといふより、話すことになれる機会を作り、英語音になれる訓練になっていることが分かってきた。4) 2021 年度研究奨励費からの予算で、英語発音の評価の経験のある英語話者 2 人に学生の最初と最後の Recitation tests の評価を依頼、学生の授業外の学習の結果を調査した。2 人の英国人採点者によると、75% の学生の発音が向上という結果を得た。英語を声に出して言う Learning strategies の大切さをよりサポートできた結果といえる。 <p>Akiko Okamura (2021). Positive emotions, motivation, and self-regulation on learning English speaking skills. The interface of emotion and cognition in language learning and use (L1, L2, Lx). The Centre for Research in Language Development throughout the Lifespan (LaDeLi), The University of Essex, UK, June (On line).</p>	

2 その他の事項

学生が課題をオンラインで提出することにより、学生の音声データを手に入れて、より個人的に細かいコメントが学生にできるようになった点は遠隔教育からのプラス面といえるだろう。

3 次年度以降の計画・抱負

重要事項に記入したが、授業、学習の楽しさと意欲の学習への影響について論文にまとめ、聞き取りと話すことがつながっているという点を授業に生かしていきたい。